学習課題　キラリー文バトル「物語を支える一文を紹介しよう」

ねらい　［第２学年］〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ　読むこと（１）イ、オ（発展）
「精査・解釈」及び「考えの形成、共有」に関する指導事項である。登場人物の言動が話の展開などにどのように関わっていくかを考えることを求めている。描写の仕方や比喩をはじめとした表現の技法にも着目させたい。

言語活動　第２学年　Ｃ　読むこと（２）イ
詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝えあったりする活動

単元計画

時数	学習内容
1	「キラリー文バトル」を行うことを目指す。 別の作品で例を複数示す。 『走れメロス』を読む。 見いだす
2	物語の中で重要な役割をもつ「一文」を探すために読む。 自分で取り組む
3	「キラリー文バトル」原稿を作る。
4 本時	**中間発表で共有し、推敲する。** 広げ深める
5	「キラリー文バトル」を行う。 ・匿名で紹介文を掲示し、 優秀作品に投票する。 （ホワイトボードアプリ）
6	振り返り 学習のねらいに沿って振り返り、自分の言葉でまとめあげる。 まとめあげる

ＩＣＴ活用の具体例

○完成した作品に対して、アンケート機能を用いて生徒間で投票を行う。

本時（第４時）の展開

①カードの下書きをカメラで撮影し、ホワイトバードアプリにおいて貼り付ける。

②グループごとに下書きを読み合い共有活動を行う。

視点
- 選んだ一文に対する自分の考えを書くことができているか。
- 一つの場面だけで解釈せず、物語全体を通して登場人物の言動を解釈しているか。
- 登場人物の言葉や行動が、話の展開などにどのように関わっているかを考えているか。

方法
- 付箋による相互評価を、視点を確認しながら行う。工夫していて良い点をピンク、アドバイスを黄色、質問したいことをブルーの付箋に記入する。

③共有活動で得た気付きをもとに、自身の下書きをさらに推敲する。

発展的にするには？

○自分の好きな作品で書いてみる
〔知識及び技能〕
（３）エ　読書

○自らの知識や体験を想起して、それらと結び付けることによって理解したことを作品に盛り込む。
〔思考力、判断力、表現力等〕
Ｃ　読むこと（１）オ

『ごんぎつね』キラリ一文バトル

この物語をこの物語たらしめている一文。物語のテーマや登場人物の設定に深くかかわっていると思われるものを選ぶ。

一段落目：この一文が出てくる場面を短く要約して紹介する。

二段落目：この一文が、登場人物の言葉や行動、話の展開にどのように関わっているか自分の考えを説明する。

青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。

これは、兵十がごんを撃ってしまった後に漏らした「ごんお前だったのか」という一言の後に置かれた、物語最後の一文である。

「青いけむり」には後悔や悲しみが、兵十の胸の中に、じんわりと広がっていく様子があらわされている。物語のはじめに「ぬすっとぎつね」だったごんが、兵十のために、くりや松たけを運んできてくれていたとは、このときまで兵十にとっては思いもよらないことであったろう。おっかさんをなくした兵十とひとりぼっちの子ぎつねごんは、兵十がごんを火縄銃で撃つというこの場面においてはじめてわかりあえたのである。この文にある「まだ」という表現とは裏腹に、きっとごんは「もう」助からない。

悲しくも美しい『ごんぎつね』の世界観は、この一文に集約されているのである。

３２３字

三段落目：この一文の物語全体における役割をできるだけ短く説明する。

よくない例

おれが、くりや松たけを持っていってやるのに、そのお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃあ、おれは、ひきあわないなあ。

これは、兵十と加助が話しているのを、ごんが聞いた時の一言である。

この言葉には、ごんの口惜しさが表れている。ごんは、連れ立って歩く二人が、自分が運んだくりや松たけの話をしているのを聞いて、きっと、兵十が自分だと気づいて、自分に感謝してくれるだろうと思っていたに違いない。それなのに、兵十は「神様のおかげだ」と言う加助の言葉を信じてしまった。

この一文は、悔しいというごんの気持ちをもっともよく表している文で、物語の中でも特に重要な文なのである。

２１９字

二、三段落目：この一文のある部分だけで内容を解釈している。

評価のポイント

- 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て内容を解釈している。
- 文章の中で必要だと思った部分に印をつけたり、必要な部分を書き抜いたりしながら読み進めている。
- 登場人物の意味などについて考えて、内容を解釈している。
- 登場人物の言葉や行動が、話の展開などにどのように関わっているかを考えている。